日本顔学会誌 査読ガイドライン

2026 年 3 月 19 日
日本顔学会誌編集委員会

本ガイドラインは、日本顔学会誌（以下「本誌」という）に投稿された論文等（以下「論文」という）の審査を、公正、適切、建設的、かつ円滑に実施するための基本方針を定めるものです。

1. 審査プロセスの概要

1　担当編集委員は、2 名の査読者に 1 回目の査読を依頼します。
2　査読者は、1 回目の査読結果を担当編集委員に報告します。査読結果は、「掲載可」「修正後掲載可」「要修正」「掲載不可」のいずれかです。2 名の査読者の審査結果によっては、編集委員会で審議の上、3 人目の査読者に審査を依頼することがあります。
3　担当編集委員は、2 名（ないし 3 名）の査読者の報告を総合的に判断し、1 回目の審査結果を決定します。
- 審査結果が掲載または掲載不可の場合には、審査完了となります。
- 審査結果が「修正後掲載可」または「要修正」の場合には、著者に論文の修正を依頼します。

4　担当編集委員は、改稿論文が提出され次第、査読者に 2 回目の査読を依頼します。
5　査読者は、2 回目の査読結果を担当編集委員に報告します。査読結果は、掲載または掲載不可のいずれかです。
6　担当編集委員は査読結果を取りまとめ、編集委員会において総合的に判断の上、最終的な審査結果を決定します。
- 掲載には至らなかったものの、次巻に掲載の見込みがある場合には、継続して審査を行うことがあります。

2. 査読における留意事項

●査読者と著者の立場　査読者と著者は、研究者として対等な立場にあります。論文の内容に批判的であっても、著者に対して敬意を保ち、具体的かつ改善可能な形で、できるだけ丁寧な表現でコメントしてください。

●顔学の分野横断性への配慮　顔学会は、「顔」をキーワードとする異分野交流の場です。本誌では、研究分野やトピックに制限を設けず、心理学、人類学、工学、社会学、芸術学、医学、情報学、デザイン学その他の関連分野にまたがる多様な研究成果を対象としています。

研究分野ごとに慣行の違いがあることを理解し、特定分野の慣行のみを絶対化して評価しないようご留意ください。自分の専門分野とは異なる形式・記述・論証様式であっても、学術的妥当性が認められる限り、公平に評価してください。

●建設的な審査のお願い　本誌では、学術的に健全で、顔学への貢献が期待される論文を、できるだけ多く掲載することを基本方針としています。学術的な健全性を担保し、よりよい論文として掲載できるよう、建設的なコメントをお願いします。不当に甘い基準での審査は避けるべきですが、過度に高い水準で厳しい審査を行うことは、本誌の方針に沿いません。

- 本誌には学生など、論文執筆経験の少ない研究者からの投稿も寄せられます。将来の顔学の発展に資するという観点から、研究者としての成長を後押しするような教育的配慮をもったコメントをお願いいたします。
- 論文の欠点に関して、過度に批判的な指摘に終始するのではなく、どのように修正すれば掲載水準に達するかという、改善志向の助言を歓迎いたします。
- 少しでも欠点のある論文を不掲載とすること、あらゆる欠点を解消するよう改稿を求めること、極めて高い水準に達するよう改稿を求めることなどは、本誌の査読として必ずしも望ましいものではありません。

●改稿の際の掲載条件　審査の結果、「修正後掲載可」または「要修正」となった場合には、掲載のための条件を具体的に記載してください。また、改稿期間内での対応が難しい分量や内容の条件を課さないようお願いします。

●顔学特有の倫理的配慮　顔という対象の特性上、例えば顔画像・顔データは個人識別性が高く、倫理面および権利処理に関して慎重な配慮が必要です。また、顔は美醜、性別、年齢、人種・民族、障害、文化、職業、階層などの社会的属性と結びつきやすく、研究成果が偏見や差別を助長しないよう配慮する必要があります。顔学特有の倫理に関して懸念がある場合には、査読コメントで指摘していただくか、編集委員会にご相談ください。

●公平性　投稿者の所属、職位、年齢、性別、国籍、研究領域、理論的立場、方法論的立場、既知の評価などに左右されず、原稿内容そのものに基づいて審査してください。

●守秘について　査読を通じて知り得た原稿内容、データ、図表、着想等を第三者に開示しないでください。また、査読中の原稿内容を自らの研究・教育・実務に利用しないでください。

●利益相反の回避　著者との共同研究関係、指導関係、所属上の密接な利害関係、競争関係、私的関係その他、評価の中立性に疑義が生じうる事情がある場合には、速やかに査読辞退を申し出てください。

●迅速性　本誌は出版時期があらかじめ定められており、これに沿って査読および改稿の期限を設けています。依頼を受諾した場合には、所定の期間内に査読を完了するようお願いします。期限内での対応が困難となった場合は、速やかに編集委員会へ連絡してください。

3. 審査の観点

顔学の分野横断性を考慮し、本誌では分野に特化した具体的な審査基準は定めていません。以下の観点を総合的に評価してください。

- 顔に関連した内容であること。
- 顔学に貢献する可能性があること。
- 学術的観点から妥当な内容であること。
- 文献が適切に引用されていること。
- 文章や図表から内容が理解可能であること。
- 学術的観点から妥当な倫理的配慮がなされていること。

本ガイドラインは、日本顔学会誌編集委員会において随時見直し、修正を行います。